

第7回 後谷湿地再生検討分科会 概要

日時：2024年11月14日（水） 13:00～15:00

参加者：13人 傍聴者なし

開催方法：ウェブ会議システム（ZOOM）

次第

1. あいさつ
2. 議事
 - (1) 第2回現地視察概要説明
 - (2) 湿地復元図(修正案)について
3. 次回以降の日程と内容の確認

資料

- ・第7回分科会次第
- ・第7回分科会参加者名簿
- ・第2回現地視察 概要
- ・後谷湿地復元レイアウト案 1028 蛇行畦畔あり
- ・後谷湿地復元レイアウト案 1028 蛇行畦畔なし

要点

この会議では、第2回現地視察の報告と水路設計の選択について議論が行われ、湿地の維持に関する課題が確認された。地元の人々によるモニタリング方法や植生工の設計についても検討が進められ、2025年3月までに計画を立てる予定が示された。植生工の構造や土壌条件、イノシシ対策などの詳細な検討が必要とされ、植物の定着後は強度が増すことが説明された。

- ・鉄道・運輸機構：横断管をため池と水田状湿地の間に追加した修正図面を作成し、分科会会長に送付する。また、湿地内に堰板を設置する修正を図面に反映する。
- ・分科会会長：鉄道運輸機構から受け取った修正図面を会員全員に共有する。
- ・分科会会長：次回分科会の日程調整の連絡を11月下旬頃に行う。
- ・分科会会長：現地視察の日程について鉄道運輸機構と調整する。

- ・ 分科会会員：次回以降の分科会で、維持管理計画、具体的な種の選定、湿地の推移、草刈りの頻度などについて検討する。
- ・ 分科会会員：市民が行えるモニタリング方法について検討する。

要約

第7回後谷湿地再生検討分科会では、第2回現地視察の概要が報告され、根本（ネキ）の保存、再生湿地の水位状況、斜面からの湧水の有無などが議論された。鉄道・運輸機構から提供された資料を基に、設置内の水路設計について二つの案から一つを選択することが目標とされた。また、旧配管の撤去や、山側からの湧水が期待されていた地点での調査結果が共有され、山水や地下水のみで湿地を維持することの困難さが確認された。

地元の人々が行えるモニタリング方法の提案と、植生工の具体的な設計について議論している。2025年3月までに計画を立てる予定で、植生工の水際の構造や土壌条件、イノシシ対策などの詳細な検討が必要とされている。鉄道・運輸機構は、植生工が水際まで敷かれ、土をかぶせない待ち受け型であることを説明し、植物の定着後は強度が増すと述べている。